

# 集中豪雨への備え

## できていますか？

集中豪雨とは短い時間で狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりころによく発生します。また、この豪雨は突発的に狭い地域に集中して降るため、正確な予測が困難です。特に中小河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる被害が大きいので、土地の低いところや、海岸地域、河川の近くでは十分な注意が必要です。

護岸もしっかりできていますが、豪雨による氾濫の可能性がないわけではありません。平素からの備えが重要です。

### 水防団と水防工法

水防団（消防団と兼務）は河川の氾濫や堤防の決壊などのおそれがある場合、水防本部を設置し、団員を招集し、直ちに水防活動にあたります。

また、水防団員は定期的に水防工法の訓練を実施しており、いざというときのために備えています。

水防工法とは水害による越水、漏水、決壊、崩壊などの被害に対応す

る工法のことです。多くの種類があります。

今回はこの水防工法の基本となる土のうの作り方をご紹介します。

(図1)

### 安全対策を万全に

災害はいつ、どこで発生するか予測できません。日ごろからの備えが重要です。各ご家庭で、いざというときの対策を考えておきましょう。

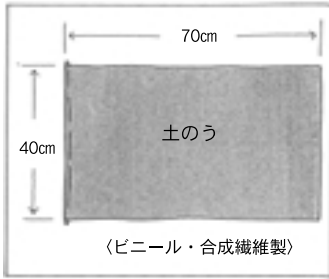
- 気象情報、町からの広報放送などによる情報の把握
- 懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池などの停電対策
- 飲料水、食糧備蓄
- 非常持出品の整備
- 安全な避難経路の確認

災害に対する危機意識を持つことが第一歩です。平素から心がけるようにしましょう。

図1 土のうの作り方



スコップで6～7杯の土を入れると、袋の約7～8割になります。その重さは、およそ30～50kgです。



袋のはしに出ている紐を引いて、袋の口をしぼります。



しぼり終わったら、紐を2～3回まわして、紐の出口を上から下へ通し、引いて締めます。



## 消防豆知識

いたずら  
119番は罪？

火災の通報を受け消防車が出場したところ、該当場所には煙も炎も見あたらない。これがいたずら通報です。

消防署への119番通報の電話回線には限りがあります。短時間にたくさん通報が重なったとき、このようないたずら通報があれば回線をふさがくことになり、本当に重要な通報を妨害することになります。

さらに、もし他の場所で本場の火災が発生したら、消防車到着が遅れ、被害が大きくなる可能性があります。

消防法第44条は「火災発生の虚偽の通報をした者は、社会的に多大な迷惑をかけることから罰則を設け、10万円以下の罰金又は拘留」と定められています。

ちなみに、「消防車が火災現場に向かうのを故意に妨害した者」「火災現場で消火、延焼の防止又は人命救助に従事する者の行為を妨害した者」は、いずれも2年以下の懲役又は50万円以下の罰金となっています。